

議会報告会報告書

開催日時	令和元年11月15日(金) 午後7時00分～9時08分
開催場所	飯高地域振興局2階会議室
委員会名	総務企画委員会
出席議員	楠谷さゆり委員長 堀端脩副委員長 米倉芳周 沖和哉 植松泰之 野呂一男 久松 倫生
	司会進行者 堀端脩
	報告者 久松倫生
	記録者 米倉芳周
参加人数	第1部 50名 第2部 50名
第2部 形式	分科会形式
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。

松阪市議会議長 大平 勇 様

令和元年 11月 21日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

総務企画委員会

委員長 楠谷さゆり

第1部

【主な質疑応答・意見等】

問 14件、29名というのは、松阪市全体での空家バンク利用数なのか、飯高管内だけでは何件なのか。

答 松阪市全体の数字で、飯高町のみの数字は持ち合わせていない。

問 防災行政無線についてのお願いがある。飯南、飯高地域では、戸別に受信機が設置されていて、行政からの情報提供がなされてきた経緯がある。情報の共有という面からみても、デジタル無線化により、屋外の拡声器のみとなり、戸別受信機が取り外されている状況下、非常に残念でならない。地域からは、より細やかな情報伝達をとの声がある。是非とも今までのように情報共有の方法を進めてほしい。

答 市は、各戸の固定電話から情報を得られる仕組みの構築を、令和元年度中の開始に向けて進めているところである。

第2部 【テーマ名 中山間地域の振興について～地域防災・移住～】

【主な質疑応答・意見・課題等】

(グループ討論 A班)

(移住について)

- ・救急医療が心配である。
- ・若い人の移住を求めるなら、産婦人科の誘致を願う。
- ・空家は多いがバンク登録のためには仏壇など家財処分の課題が多い。また、登録に時間がかかりすぎる。
- ・空家購入後のトラブル防止のため、賃貸契約からはじめてはどうか。
- ・移住を考える人に、移住してきた者に地域の案内をさせてほしい。
- ・教育に優れた地域であるなどのブランディングをもっと考えてPRしてほしい。
- ・県外から移住して十数年、素晴らしいこの環境を写真に収め逆に地元の方々へ、その素晴らしさを伝えている。私はユートピアに住んでいる。

(防災について)

- ・防災無線のデジタル化に対する不安は大きく、もっと広報啓発を行ってほしい。
- ・避難所自体にもリスクがあるので心配である。ただ、先日の台風時には行政の方が見に来ていただき、ありがたかった。(嬉野宇気郷地区在住)
- ・現在、風車発電事業の問題があり、大変不安である。

(グループ討論 B班)

(移住について)

- ・移住してきて、何もかも素敵で地域の結びつきも強い。これは松阪の強みだと思う。
- ・伝統行事を維持していただくだけでも大変なことだが、移住政策で若い人達をこの地へ呼ぶことはもっと大事である。そのためにも、子育て環境を整えていかないと現役世代の移住は難しい。
- ・お金のために、この地域に移住してくるわけではなく、人や地域とのつながりを求めて移ってくる人が多いと思う。その価値観を共有して政策を進めてほしい。
- ・三重県、特に松阪を選んで移住したのは、「自然」が好きだからである。特に飯南飯高地域は川がきれいで、水が豊富だ。そこに魅力を感じる。
- ・住んでみて初めて分かることは、地域のつながりが強く、近所づきあいもあり、地域のコミュニティがしっかりしていることである。よって、移住者が移住者同士で固まらず地域に馴染んでいける。これこそが松阪の強みであり、そのことを、もっとアピールして発信すべきである。

- ・移住者を迎え入れる側の者としても移住者を頼りにしているところも多々ある。伝統行事がそうだ。一人暮らしの地域が多い中、行事そのものができずに廃れていく一方だが、移住者の方々が来てくれることで伝統行事が維持していけることに期待をかけている。
- ・これからの移住政策に大切なことは「子育て」だと思う。そもそも地域に学校がないと移住先を選ぶ上で、選択肢から外れてしまう。色々な考えはあるだろうが、今ある学校を統合してはいけない。統合し学校がなくなれば、過疎化が加速していきただけである。今からが踏ん張りどころだと思っている。コンパクトな「まちづくり」を目指し、「まち」を集約していくような政策を進めていくのなら、松阪に魅力はなくなる。そうなれば再び移住することを考えざるを得なくなる。
- ・人生で何を重視するかは人それぞれの考え方があるが、仕事は選ばなければある。移住を希望する人はお金を目的にしていない。
- ・移住には二通りある。出身者が戻ってくる場合、全く地域に縁のない方が移ってこられる場合、全く地域に縁の無い者の意見として、自然に魅力を感じる。大阪出身だが、この地は川がきれい、生き物、動物が多い。三重は素敵。
- ・地域と移住者がうまくいってのは、コミュニティができているからである。伝統を維持していくのに移住者の力を借りている。来ていただいてありがたい、大歓迎である。
- ・松阪への移住促進を発信する際は、地域の「コミュニティ」ができていることを強調するべきである。

(防災について)

- ・伊勢湾台風を経験している。600ミリを超える雨は怖い。地域柄、重機が入らないところもあり不安である。
- ・植林をしてから50年ないし60年しか経っていないものは大雨で抜けてしまう危険性がある。抜けた場合、川まで流れ込み、川を塞いで被害が甚大になる。それにより山も保水力がなくなってしまうという悪循環になる。
- ・これまで伊勢湾台風の被害状況を基準にして防災対策を行ってきた。しかし、先般の関東地方の大雨被害のように600ミリの雨が降れば、対処のしようがない。
- ・この地域は、道が塞がれてしまったら燃料も重機も入ってこられなくなり、電気、水道なども止まるのが心配である。また、携帯が使えない状態が起こる。これらの対策が必要である。
- ・空き家が増えると、防風の際、空き家の屋根などが吹き飛ばす等で災害に繋がる可能性がある。対応策を考えてほしい。

(グループ討論会 C 班)

(移住について)

- ・空き家バンクで家を貸すのであれば、借りる側の立場の意見として、家を片付けて貸してほしい。荷物をそのまま残したままでは、借りた者は、住むまでの間、他人の荷物を片付けるために、通わなければいけない状態になる。
- ・家の修繕や補修の費用について、大家さんとのトラブルになっている。家賃を払っているにも関わらず、修繕、補修費の半分以上を請求されて困っている。このような場合、行政に相談できる体制があればと思う。
- ・空き家バンク制度の中の地域面談の際、地域側としては「来てほしくない」人もいるのが正直ある。地域に移住する前に、行政側で事前の対策をとってほしい。
- ・移住者には、仕事先を探すことが困難であったり、学校や病院が遠い、公共交通機関が不便で車がないと移動できない等、生活していくことが非常に大変であるという事実がある。夢や理想だけでは暮らせないので、移住希望者にはもっと厳しい現状を説明し面談をすべきである。
- ・移住促進は賛成ではあるが、移住者への仕事の斡旋をもっと積極的に行政側は行うべきである。

(防災について)

- ・防災無線について、平時でも屋外の無線は聞こえにくいのに、大雨や暴風時に無線は聞こえる筈がない。また、停電等があれば、自宅の電話を使うこともできないのではないかと。個別無線(アナログ)の延長を検討してほしい。
- ・この地域は、各地区の避難所が遠いのが実情である。例えば、保健センターが避難所として、自宅から 2 km 離れているところへは遠すぎて独居老人は避難できない。地域に近い集会所を利用し、そこに一時的に集まり、共助にて避難所へ避難するといったようなプロセスが必要であると考えます。
集団で非難するとか、相互に助け合える仕組みづくり等を行政も含めた相談や話し合いをしていきたい。
- ・道の駅「飯高駅」は、6 年前に市と防災協定を結んだが、その後、市と協定について一度も話し合いがない。再度、改定も含めて話し合いをすべきであると考えている。
- ・避難行動要支援者に対する支えあいについて、発災時に自分が不在であったら、助けなければいけない人を助けられず、どんな非難をうけるかわからないという不安がある。
- ・地区の住民の大雨、暴風時の避難意識が、他の地区より意識が低いのが課題である。先般の台風時に避難勧告が出たのに避難者がゼロだった経緯がある。再度、防災意識の向上を啓蒙しなくてはと考える。
- ・「自分の命は自分で守る」という意識が必要である。すぐ動ける者は勿論だが、動けない者も誰かに頼むという意識が肝心である。